

Si-R G21x V20.54 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	内蔵通信モジュールの異常発生時の復旧機能	内蔵通信モジュールの異常発生時の復旧機能をサポートする。 ※Si-R G211のみ。
2	コアファイル(corefile)管理機能改善	障害調査用のコアファイル管理機能について、以下の改善対応を行う。 - ftp/sftpクライアント経由の取得機能をサポート - コアファイル削除コマンドの追加

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V20.00~V20.53 ・NAT機能利用時	NATテーブル使用数が装置上限となるような運用環境において、SIPパケットがNAT変換される場合に装置が再起動することがある。
2	V20.00~V20.53 ・ProxyDNS機能利用時	ProxyDNS機能を使用し、TCP接続によるDNS解決要求を処理する運用環境において、メモリ予兆監視による異常を検知し、装置が再起動する場合があります。
3	V20.00~V20.53 ・VRRP機能利用時	[IPsec/IKEv1構成(手動鍵設定)において、自側トンネルアドレスにVRRP仮想IPを使用する運用環境]、または[VRRPバックアップルータにおいて、VRRP仮想IP宛のパケットをVRRPマスタールータに転送する運用環境]の場合に、メモリ予兆監視機能により異常検知される場合があります。
4	V20.00~V20.53 ・sysdown harderrコマンド実行時	sysdown harderr thermalまたはsysdown harderr otherがコマンド入力時点(commit前)で動作変更が適用されてしまう。
5	V20.00~V20.53 ・USBデバイス、データ通信モジュール利用時	以下の条件でUSBコントローラ異常(c5000501)を誤検出し、エラーログを記録する場合があります(エラーログの記録のみで機能や通信への影響なし)。 1) usbctl ejectを実施せずにUSBデバイスを挿抜した場合 2) USBポートに接続したデータ通信モジュールによって、特定の状況下において、データ通信モジュール再起動が発生する場合 3) USBポートに接続したデータ通信モジュールが故障した場合 4) USBポートが故障した場合
6	V20.00~V20.53 ・データ通信モジュール利用時、内蔵通信モジュール利用時	装置を再起動せずに、内蔵通信モジュールの設定異常や接続先状態異常により接続エラーを約3万回以上繰り返す環境の場合。または、内蔵通信モジュールやデータ通信モジュールを使用し、usbctl restartを約3万回以上実行した場合。エラーコード[d4000100]が記録されて再起動する。
7	V20.00~V20.53 ・内蔵通信モジュール利用時 ※Si-R G211のみ。	内蔵通信モジュールの異常発生時show wwan faultstatコマンドを入力すると、内蔵通信モジュールの接続がリンクダウン、アップする場合があります。 ※Si-R G211のみ。
8	V20.00~V20.53 ・内蔵通信モジュール利用時 ※Si-R G211のみ。	内蔵通信モジュールの通信負荷が高くなる。または電波状態取得が失敗した場合、一時的に内蔵通信モジュールの通信がリンクダウンする場合があります。 ※Si-R G211のみ。
9	V20.00~V20.53 ・show wwan status csvコマンド実行時 ※Si-R G211のみ。	pseudo-ether condition watchコマンドにより電波状態監視している環境で、show wwan status csvコマンドで受信電波レベルを取得した際に、通信モード項が接続中であってもdisconnectとなる場合があります。 ※Si-R G211のみ。
10	V20.01~V20.53 ・NXconciierge運用時	プロキシサーバを経由して管理ポータルにアクセスする構成、かつproxy認証ID・パスワードに記号を含む場合、NXconciiergeエージェントが管理ポータルと通信できない場合があります。